

原子力リスク研究センター (NRRC) 第 18 回 技術会議 議事録

1. 日 時：2017 年 11 月 30 日 (木) 10 : 30~12 : 30
2. 場 所：電力中央研究所 大手町本部 役員大会議室
3. 出席者 (順不同、敬称略)
主査：横尾 (NRRC)
委員：勝海 (北海道電力)、遠藤 (東北電力; 加藤代理)、
村野・山本 (東京電力 HD)、
伊原・名倉・尾之内 (中部電力; 中川代理)、米原 (北陸電力)、
鈴木・吉原 (関西電力)、吉谷 (中国電力; 林代理)、
黒川 (四国電力)、岡野 (九州電力)、石坂 (日本原電)、
岡村 (日本原燃)、鞍本 (電源開発)、四柳 (東芝)、
今野 (日立 GE)、高橋 (三菱重工; 山岸代理)、倉田 (原安進)、
宮本 (電事連; 渥美代理)、多田 (電工会)、
高橋・示野・白井・梅木・稲田・山本 (NRRC)

4. 議事概要

○電気事業連合会の原子力部長および日本電機工業会の原子力部長を技術会議委員とすることについて確認があり、異議なく了承された。

(1) 2018 年度研究計画 (案) について

○NRRC より、「2018 年度研究計画 (案)」について報告がなされた
(主なコメント ◆外部委員、◇電中研委員)

◆肝心なのは PRA を何にどう使うかということだ。レベル 2PRA については抽象的に不確かさが減るというだけではなく、使うことで得られるメリットが具体的に見えないと、なかなか実用にはつながらないだろう。

◇研究ロードマップでも適用先とメリットをより明確にして、開発に取り組んでいきたい。

◆PRA 開発やガイド策定にあたり現場の状況を実際に知りたいということがあれば、発電所に来てもらったらよい。

◆安全性向上評価への適用やパイロットプラントにおける試行など、具体的な適用を意識した研究にシフトするということは、事業者としてもありがたい。

- ◆建屋の現実的な地震フラジリティ評価は、手法開発に時間がかかると思うが、その実現に向けてどう取り組んでいるかを、スケジュールとともに外部にも説明する必要がある。

(2) NRRCの活動状況について

- NRRCより、「リスク情報を活用した意思決定プロセスの導入に向けた戦略プラン及びアクションプラン（案）」について報告がなされた。
- NRRCより、「原子力リスク研究センターシンポジウム2018」について紹介がなされた。
- NRRCより、「NRRCが主催するPRA教育実施」について紹介がなされた。

以上